

第7回茅野市地域創生総合戦略進行管理有識者会議

|          |  |       |    |
|----------|--|-------|----|
| 開催日時     | 令和2年2月26日(水) 午後6時30分から午後8時まで   |       |    |
| 開催場所     | 茅野市役所8階大ホール  |       |    |
| 公開・非公開の別 | 公開・非公開   | 傍聴者の数 | 0人 |
| 議題及び会議結果 |  |       |    |
| 発言者      | 協議内容・発言内容(概要)  |       |    |
|          | <p>会議次第</p> <p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 会議事項</p>  |       |    |
| 事務局      | <p>(1) 第2次茅野市地域創生総合戦略に位置付ける数値目標・KPIについて(資料16)</p> <p>————— 各課より説明 —————</p>  |       |    |
| 委員       | <p>5ページ(基本目標3 社会増減数)について、前回も質問が出たと思うが、転出者数から転入者数を引いた社会増減数とのことだが、510人転出者が増える(人口が減る)目標値、ということか。</p>  |       |    |
| 事務局      | <p>転入者から転出者を引いた数の誤り。転入者数が増える(人口が増える)、という目標値。</p>   |       |    |
| 委員       | <p>10ページ(基本目標5 行政サービス全般に対する満足度)について、50%という目標になっている。市民アンケートの中で、「満足」と「ほぼ満足」という数字が現状42.9%ということかと思うが、「どちらとも言えない」と回答した人はカウントしないのか。この現状値を見ると茅野市の行政サービスはどちらかというところ落第点ということになっているが、(実際は)そんなに悪くないのではないかと思う。行政の方たちも頑張っているし、これは数字の出し方だと思う。どうしても「満足」、「ほぼ満足」を増やしたいということなのか。「どちらとも言えない」と回答した人をどう解釈するかということも考え方の一つだと思う。当然行政なので創意工夫は足りないかもしれないが、皆さんも一生懸命やっているので、「満足」、「ほぼ満足」を増やしたいということであればこの目標値はもう少しあげてもよいのではないかと思う。市民アンケートの最後にご意見やご提案という設問があり、市民の方から、こういうことに感謝していますという意見もあれば、要望についても多くある。例えば、(アンケートの中に)行政に対して自分が協力していること、という項目を入れてみてはどうか。地区活動だとか、自分がこのようなことを協力しているということを手挙げてもらうことで、市民が(市に対する)要求ばかりではなく、自分もまちづくりに取り組んでいる、だから一緒に数値を上げられるように頑張ろうと、市民もそういう気になるのではないか。そうすれば50%は簡単に達成できるのではないか。</p> |       |    |

|    |  |
|----|--|
| 市長 | アンケートの取り方の話かと思う。市の取組がまあまあ良いのではないかと感じたときに「どちらとも言えない」という回答になるのか、「ほぼ満足」という回答になるのか、ということなのかと思う。  |
| 委員 | 先日も言ったと思うが、アンケートの回収率が非常に悪い。アンケートの内容が偏っているように感じる。私から見れば茅野市（のサービス）はとても顧客満足度が高いと思う。市民の要求にもきちんと答えているのになぜ自信を持って言えないのか。行政という立場でサービス向上していきますよ、という目標はもっと高くても良いのではないかとと思う。行政のサービスが悪いと他県から見られたときに、茅野市に来たい、と思ってもらえるのか。思わないと思う。茅野市がすごいところで幸せなところだとそういうまちが良いと思う。住民票を取りたい、と言ったときにもすぐに発行していただける。もう少しここは挙げて良いのではないかと。行政のサービスをPRして、高い満足度を掲げておいて、達成できなかったら達成できるように頑張ればよい。そのようにしていただきたい。  |
| 委員 | 私も同意見。権利を主張する人たちが、自分たちの権利として行政サービス良くないよ、と言い始めてしまうと、成り立たなくなってしまう。きちんと義務を果たしながら権利をどう得るかというところとマッチングしていないと成り立たない。ただ満足度というところで取ってしまうと、権利主張をするところから満足でない、という意見に偏ってしまうと、満足度を上げたことによって行政が立ちいかなくなる、ということになってしまうと本末転倒。義務と権利をどう見ていくか、というところがアンケートの中から抽出されるようなことにならないと続いていかないのではないかと。そもそもどう義務を果たすのか、という市民側の目線もアンケートの中で抽出できるようにしていくことが、自分たちも行政に関わりながら行政が継続できるように協力しなければいけないという意識を醸成することが、アンケートの中にも一緒にあればよい。ただ満足度という切り口で良いのか、というのは感じるところ。   |
| 委員 | 2点お願いしたい。まず1ページ目（基本目標1）の観光情報サイトアクセス数について、（新たに立ち上げたサイトという事で）実績がないなかで、現状81万件を100万台の大台にのせていくという目標。確かに100万台にのせることは必要かと思うが、ただ100万が本当に妥当なのか、というと、例えば当市と同規模の市町村で非常にサイトを使った観光客の誘致がうまくいっているような市町村があった場合に、例えばそこを成功事例として、盛んなサイトがどのくらいのアクセス数なのか、本当に100万が良いのか、という妥当性が分かりづらい。他市の事例等を踏まえて（この数字）という事なのか、その他の目標である観光消費額や利用客数を達成するためにはまさに入口としてこのくらいの方には関心を持ってもらう必要がある、という数値が100万なのか。目標値としては少し低いのではないかと感じる。ここはもっとリソースを持った根拠ある数字にした方が良いのではないかと。また、8ページ（基本目標4）の不妊治療の助成を受けた方への母子健康手帳交付率について。この目標値は助成を受けた方のうちお子さんを授けられた方、つまりは妊娠の成功率のような数字に見える。不妊というのは、どんなに医療が発達しても、タイミングや体調の問題でなかなか授かりたくても授 |

|                    |   |
|--------------------|---|
|                    | <p>かれない、非常にデリケートな問題。この目標値は非常に乱暴な言い方をすると妊娠成功率のようなもの。このような目標値を行政が掲げるのははたしてどうなのか。不妊の助成をしようとする行政の目的にそったものなのかどうかという、違うのではないかと、うまくいかなかった人にとって見れば残りの5割の中に入れず失敗したのだな、と、非常に悲しく思う方がいらっしゃるのではないかと、行政がやろうとしている助成に対する効果の指標としては、私は適当でないと思う。ここの数字については考え直していただいた方がよいのではないかと。</p>             |
| <p>委員</p>          | <p>目標としてサイトアクセス数はよく設定される値だと思うが、実際にそこにどのくらい効果があったか、というのはサイトアクセス数だけでは判断しづらい。そこから問い合わせが発生した、コンバージョン率というものの方が妥当かと思う。単純にアクセス数だけを見るのではなく、いかにこの後につながったかを取る方が妥当ではないかと思う。</p>  |
| <p>委員</p>          | <p>不妊について、言われるまでそのようなには思わなかったが、お話を聞いて確かにその通りだなと感じている。何を知りたくて、これを見て誰がどう感じるのかということを考えて、違う目標を考えたほうがよいのではないかと。</p>  |
| <p>観光まちづくり推進課長</p> | <p>昨年度、茅野市の推進機構が立ち上がり、市と共同で地域の観光振興に寄与するために活動している。そこで新たにホームページを立ち上げて茅野市の観光地の宣伝を行っており、初年度のアクセス数しか把握していない。類似の市町村というものもなかなか人口規模や、同じような観光地を有しているかを判断するのは難しい部分があるが、ご意見は参考にさせていただく。気持ちの上では100万の大台にのせたい、まずはそこから始めていく、ということでこの目標値を掲げた。ただのアクセス数だけではなく、分析が必要とのご意見もあったが、そこは検討させていただく。</p> |
| <p>委員</p>          | <p>広告は打っているのか。広告を打つのであれば100万アクセスくらいはすぐに稼げると思うが、これは広告を打った場合の数字なのか、そうでないのかを伺いたい。</p>  |
| <p>観光まちづくり推進課</p>  | <p>詳細は把握していないが、おそらく広告を打たない場合の件数という事で理解をしている。ただ、ホームページだけではなく、SNS等も活用しながら広角的に宣伝はしている。</p>   |
| <p>市長</p>          | <p>目標設定の根拠、コンバージョン率等をしっかりと把握した中で、目標値をもう一度検討したいと思う。</p>  |
| <p>委員</p>          | <p>不妊治療については、目標として（母子健康手帳交付の）件数を挙げなければいけないのか。例えば助成費用でいくらか、根拠とする数字を変えればよいのではないかと。不妊治療は非常に必要で、やっている方は多いと思うが、例えば助成金が今いくらかで何年後はこのぐらいにするとか。妊娠率というのは目標として表してよい数字かと疑問を感じる。金額で出すことはできないのか。</p>  |

|           |  |
|-----------|--|
| 健康福祉部長    | ご意見はごもっともである。私もこちらは不適切な KPI だと思う。言い換えれば妊娠成功率のようなもので、大変配慮を欠いた数字だと思う。金額や件数で数値を出すというのが適切かと思うので見直しを行いたい。   |
| 健康づくり推進課長 | この目標値をあげさせていただいた理由だけお話させていただきたい。少子化の原因には晩婚化、非婚化の増加があると思う。この中で特に晩婚化は出産年齢を引き上げることから、出生率が低下する傾向となる。年齢とともに出産する力が下がっていく、という事で不妊治療が必要な場合がある。そういった事情がある中で、市として戦略的にお金をかけているということがあり、また他市町村でこの数値を目標としているところは多々あることから、数値を目標として挙げさせていただいた。しかし、今部長が申し上げたとおり、委員さんのご意見はもっともだと思う。金額は件数によって大きく違ってしまいますので目標にはしかねるが、出生数や件数で表すなど、再度検討させていただきたい。   |
| 委員        | 3 ページのコワーキングスペースの売上額について。ワークラボが出来上がってもうすぐ 2 年目になる。曜日によってはかなり使用率が高く、既に飽和状態になっている。向こう 5 年間で 110% の増加率となると、かなり低いかなと思う。既にキャパシティがいっぱいになっているので、このままで行くとそもそも増加が難しいと思う。コワーキングスペースを今後拡張していくのか、または新たなコワーキングスペースを他に作っていくのか、そのあたりはどうなっているのか。   |
| 商工課長      | おっしゃるとおり利用者は増えてきている。指定管理をお願いしている皆様のご努力はもとより、理科大生に利用を投げかけて実際に利用率も高くなっている。しかしながら、コワーキングスペースの売上高の大半は、オフィスブースの利用料が占めている。実際は 10 ブースが既に埋まっている状態。ここから売上高をあげていこうとすると、スペースの拡張、フロアを増床していくことが必要になるが、現状においては限られた予算の中で運営している。当初の目標である、5 年間で指定管理者の皆さんに頑張ってもらっていただく中で、なるべく利用率を上げる、売上高を上げることに取り組んでいる。最終的にはコワーキングスペースの売上高だけではなく、この地域全体の稼ぐ力の源になればよいと考えており、そうしたところを目標にしていきたいと考えている。現状では、まだ増床や移転の考えには及んでいない。今のところ今のスペースでしっかりと頑張っていきたい、というのが現状。 |
| 委員        | よく駅前を高校生がたむろしているの、チノチノにはいかないのか、と聞いてみたが、(チノチノを) 知らないと言っていた。高校生があそこを使うのは悪くはないと思うが、(チノチノを) そもそも知らない、利用しない、という高校生がいる。実は、コワーキングスペースにも高校生がたむろしていて、なぜチノチノを使わないのか聞いたところそもそも知らないという話を何回か聞いている。告知を高校生全体にやるのか、または特定の人しか行けない場所にするのか、というのを感じたところ。   |
| こども課長     | チノチノの周知については、これまで実際に高校まで出向いて実施していたが、ここ 1、2 年は取り組みが弱まっていた。チノチノを知らないという事がないように PR には努めていきたい。   |

|           |   |
|-----------|---|
| <p>委員</p> | <p>実際に今コワーキングスペースをやっている側からすると、会議室の稼働率は上がっては来ているが、10%稼働率を上げるというのはそこをさらに上げるということかと思う。もう一つ、ブースが今6室あるが、キャンセル待ちの状態が続いている。指定管理が終わった後、共益費も上がるそうだが、補助金を入れながら運営をする施設、というところから脱却するためには、一番収益を上げるのはブースや個室。レントブル比という考え方があるが、固定で家賃をもらえるところと、共益スペースになっているところの比率が現状30%。すなわち固定家賃が取れるところが30%しかない。経済的な理屈で言うと、個室の数を増やしてレントブル比を50%くらいにもっていくと、補助金が無くてもまわる仕組みになる。今の状態では指定管理が終わった後、補助金を入れながら運営しなければならないが、それを早急に解消するためにはレントブル比をあげて、税金を使わずに、ベルビアの家賃も共益費を払って運営できるような自立を目指すべきではないか。そのためには、ベルビアの全体的な使い方を議論するタイミングになってきているのではと感じている。</p>  |
| <p>市長</p> | <p>目標値の設定という事では、この目標値についてはこれで設定させていただき、手法についてはまた今後議論をしていければと思う。</p>   |
| <p>委員</p> | <p>6ページ（基本目標3）の（田舎暮らし楽園信州ちの協議会を通じた）移住・定住件数だが、今回この総合戦略は、人口減少を食い止めることを狙っており、関係人口を増やすということが一つ目標にあると思う。それはかなり長い時間がかかるのに対して、移住・定住というのは人口減少にダイレクトに効くというところから考えると、現状維持というのはチャレンジングではない、守りの数字だと思う。茅野市はポテンシャルの高いところなので、そこでこの目標というのはかなり守りに入っているのではないか。先ほどベンチマークを設けるという話があったが、例えば大町市は平成30年度、74人移住し36世帯。これは定住促進窓口で相談履歴のあった方の数値。伊那市では平成30年で131人60世帯が移住している。ただ、移住相談窓口件数は44人。こういう具体的な数字があるのでそれに比べると非常に低いのでは。以前も、楽園信州ちの協議会を通じた件数という目標値の設定が良いのかという話があったが、改めて検討する必要はあると思う。大きな目標を掲げると予算との兼ね合いもあり、単に目標を掲げればよいというものではないというのわかっているが、チャレンジングな目標、そして予算的な配分も含めて、数字的なものや件数の出し方も含めて見直しをしていただきたい。</p> |
| <p>委員</p> | <p>以前も申し上げたが、楽園信州ちの協議会の数字は本当に氷山の一角、きっかけになるような活動。それでも他の行政が後追いで頑張っている中では、茅野市はかなり前を進んでいる。この数字は本当に協議会で確実に把握している、参加して2年以内に移住している方の数字。5年後に移住してきた人はカウントされていないし、ただ相談してきただけの人はカウントされていない。移住推進係は職員が一人、地域おこし協力隊が一人、の二人でやっている。本来そんな事業ではないので、庁内全体で取り組むというのと、データの取り方を変えていけばこのような数字ではないはず。移住という大きなテーマで考えると、楽園信州ちの協議会という狭い範囲の数字のみで管理するのはおかしいかと思う。</p>   |

|                    |   |
|--------------------|---|
| <p>観光まちづくり推進課長</p> | <p>移住者というものをどうカウントするかが課題。例えば市民課で住民票を移した方が移住者と言えるのか、まず移住者の定義が難しい。楽園信州ちの協議会以外にも宅建協会（宅地建物取引業協会）や個々の宅建業者のように移住推進を行っている団体もある。そうした中ですべての数値を把握する、という事は非常に難しいので、まずは楽園信州ちの協議会の事務局を担った茅野市というところから、楽園信州ちの協議会の取組の中で把握できる数字を目標値としている。全国どこの自治体でも移住推進に取り組んでいる中で、現状維持という目標がいかにかに困難かを考え、この数字を設定させていただいている。定義の仕方やデータの取り方は良い案があればお示しいただきたい。</p>  |
| <p>事務局</p>         | <p>(2) 第2次茅野市地域創生総合戦略（策定案）について（資料17）<br/> ————— 事務局より説明 —————</p>   |
| <p>委員</p>          | <p>数値目標の関係について、生産年齢人口が減少している中で、維持をしていくという事は非常に大変なこと。数値を下げないように維持をしていくことは最低限必要なことかと思う。</p>   |
| <p>委員</p>          | <p>CHUKO らんどチノチノについて、平成29年から急激に人数が減っているのが気になった。チノチノは、子ども達だけで活動できる場で、私たちも子ども達に協力してもらうこともある。茅野市の中でも多くイベントにも出てもらっていることもある。ここでの人数を伸ばしていくことは必要なことだと思うので、少なくなった経緯はわからないが、どんどんと目標値は上げていただいた方が、今後の地域の活性化につながると思う。力を入れていただきたい。</p>   |
| <p>市長</p>          | <p>チノチノはだいぶ老朽化も進んでおり、議会に承認いただく必要はあるが、来年度、改装費用を予算化している。また多くの中高生に使っていただけると思う。すわっちゃおの人達と合同でコンサートを行ったりと、様々な活動も活発化しているように感じているところ。</p>   |
| <p>委員</p>          | <p>昨年リゾートテレワークをやっていて感じたところだが、角川や Google から意見が出ていたが、Wi-Fi が旅館で使える率、観光地で使える率というのは、若い人たちが旅行をする時の基準になっている。今は予約先で Wi-Fi が使えるかどうかというのが重要。アクセス数ではなく、旅館にどれくらい Wi-Fi の普及率があるかとか、ICT に関することを観光の目標で入れておいてはどうか。5G の時代も来るわけだが、通信環境は旅行のときのインフラとして大切なことなので、なんらかの形でこの戦略会議の中で ICT のインフラ整備についても KPI をつけたほうが良いのではないかと、という印象を持っている。そちらの情報発信が大切だと思う。別荘地でも Wi-Fi が使えるところはほとんどなく、携帯電話の電波すら入らないというところもある。そこを普及させることが観光の成功の近道ではないかと思う。</p> |
| <p>委員</p>          | <p>基本目標5の安心・安全、快適なまちをつくるという点について、コロナウ</p>   |

|     |   |
|-----|---|
| 委員  | <p>ウイルスが猛威を振るっている中で、市民の方も気にされるかと思う。行政の支援体制や取組体制を記載した方が市民も安心するのではないか。</p> <p>あとは具体的にどうしていくか、という話がパブリックコメント等に出てくるかと思うが、できる限り若い世代を参画させられるよう努力していきたい。</p>   |
| 委員  | <p>この会がスタートしたときわかりづらい資料だと思った覚えがあるが、ここにいる皆さんが色々な意見を出していただく中で、事務局の当初のスケジュールとは大きく変わったかと思っただが、本当に読みやすくなったと感じている。今日の資料を見ても見やすくきれいになっている。具体的な数値についても、ざっくり書かれた数字と、一桁まで書かれた数字もありそこについては違和感を感じながら見ていたが、今日の意見を聞いていて本当にわかりやすい、きちんとしたものができるという希望が持てた。最後に、Wi-Fiの要望は、病院でもCHUKOらんどチノチノの子ども達からも、色々な所で出されていて、やはり要請にはこたえていかなければいけないのかと感じた。スタートした時から比べると良くなったと感じている。</p> |
| 事務局 | <p>(3) 今後のスケジュールについて (資料 15) (資料 18)</p> <p>————— 事務局より説明 —————</p>   |
| 事務局 | <p>4 その他</p> <p>次回会議は、3月27日(金)16時から開催を予定しているが、今後、新型コロナウイルスの動向次第では、会議開催が難しい可能性もある。その場合には、書面でのやりとりとせざるを得ないこともあろうかと思うが、ご了承ください。</p> <p>5 閉会</p>  |